

地域資源を活用した中山間地域の地域振興に関する基礎研究

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究室(土木史研究室)
青木真一 小平貴司

1.背景

中山間地域における過疎化の進行と地域の荒廃

廃校となった学校施設の活用方法の問題

本研究が対象とする
栃木県那須烏山市大字小木須も同様である

中山間地域の持続可能な
地域振興を考えると...

都市と農村の交流促進がひとつの有効な手段

2.目的

那須烏山市のまちづくりのひとつの柱として、
大字小木須の地域活性化を考えるとともに、
中山間地域振興のひとつの方向性について検討を行う。

具体的な目的として...

- ①地域形成史の調査・分析による地域資源抽出
- ②景観整備の方向性についての検討
- ③那須烏山市立東小学校活用方策の検討

3.那須烏山市小木須地区の位置

赤で示す場所が大字小木須、緑で示す場所は『国見の棚田』を有する国見地区。



4.地域資源調査

(1)調査概要

地域資源を抽出するため
以下のような調査を行った。

- | |
|-----------------------------|
| ①日 時: 平成19年7月3日 |
| ②場 所: 那須烏山市「サンライズ国見」 |
| ③参加者: 地元自治会4名、市職員2名、本研究室5名 |
| ④内 容: 地域の道路整備、民俗等についてのヒアリング |
| ①日 時: 平成19年9月9日・10日 |
| ②場 所: 那須烏山市大字小木須 |
| ③参加者: 地元自治会3名、本研究室4名 |
| ④内 容: 地域資源に関するヒアリングおよび現地調査 |
| ①日 時: 平成19年10月17日 |
| ②場 所: 那須烏山市大字小木須 |
| ③参加者: 地元自治会4名、本研究室3名 |
| ④内 容: 地域資源に関するヒアリングおよび現地調査 |

(2)調査結果の整理(一部)

①歴史・文化資源



②自然資源



5.地域資源活用のキーワード

調査結果を基に分析した結果、
次のようなキーワードが浮かび上がる。

「地域のつながり」・「絆」

例えば...

- ◆神社・祭礼による地域社会のつながり(横軸)
- ◆氏神による一族のつながり(縦軸)
- ◆講による性別・年代別のつながり
- ◆民話・伝承にみえる人と動物との関わり

これらのことから...

「結束」の象徴的存在=『国見の棚田』

6.棚田構造図の作成

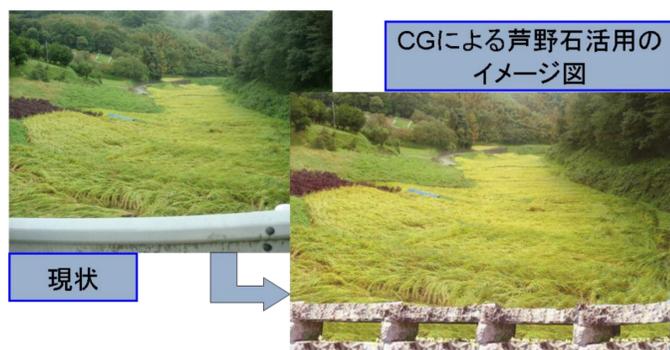
地域結束を象徴するといえる『国見の棚田』の基本的な図面を作成した。



7.景観整備の検討

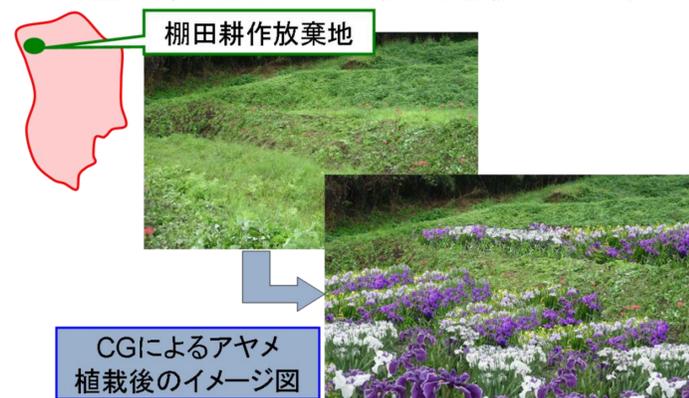
(1)『国見の棚田』

大きな地域資源である棚田周辺の
ガードレールを撤去し、代わりに地元
産素材を活用した修景案を検討した。



(2)棚田耕作放棄地

大字小木須北西部にある棚田耕作放棄地の
水生植物植栽による復元を検討した。



8.那須烏山市立東小学校の跡地活用方策検討

廃校後の活用方法についてアドバイス依頼を受けている市立東小学校。
今年度はふたつの方向性について考え、具備すべき設備等をまとめた。



地域の歴史・文化を伝える施設

- ◆来館者に対する情報発信手段の検討・工夫
- ◆小木須地区の歴史・文化を語ることでできる人材の育成と配置
- ◆地元産農産物の直売所、郷土料理店舗の開設(土・日・祝祭日)

スポーツ合宿施設

- ◆宿泊施設やシャワールームとして教室を改装・整備
- ◆食事・調理をするための食堂と調理場
- ◆他施設(サンライズ国見、わらび荘)との連携

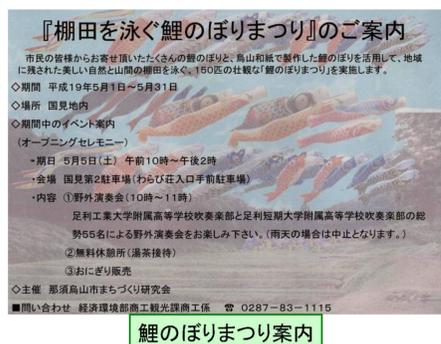
9.ホームページのWeb公開

情報発信の一手段として昨年度よりホームページ
を公開しており、概ね2週間を目途に更新している。



10.都市との交流機会の創出

昨年度より計画していた、都市との交流機会をつくるためのイベント『棚田を泳ぐ鯉のぼりまつり』が、地域住民・行政・本研究室の協働により今年度実現した。この事業は季節の風物詩として、次年度以降も継続していくことになった。



11.まとめと今後の課題

本研究では、大字小木須の地域資源抽出を行い、
地域の特徴を分析した結果、「つながり」・「絆」
というキーワードを捉えることができた。

今回は地域資源抽出とその特徴分析に重点を置
いたため、地域づくり計画についてはいくつかの
景観整備・小学校跡地活用の方向性について
提示するにとどまった。

今後は、今回の調査を基礎として、都市人口の
流入を促すためのさらなる計画が必要である。